

選考委員長講評

梅光学院大学学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で9回目になります。応募された団体は、33団体でした。1次選考では各分野を念頭におきながら13団体に絞り、2次選考では優秀賞を4団体選びました。活動の規模、独自性、地域活性化力、今後の広がりの可能性、継続年数、メンバー数等を確認し、分野の移行の可能性も探りながら優秀賞を決定。優秀賞から最優秀賞を決定したのは例年通りです。奨励賞は地道に活動を続けてこられた団体に対して、今後も頑張ってもらいたいとエールを送る気持ちを込めて、2つの団体に差し上げることにしました。



今回の特色は、規模はそれほど大きくはありませんが、地道に自分達でコツコツと活動を積み上げ、やりがい・生きがい感を持って自分達も楽しみながら地域に発信し続けておられることです。今回選にもれた団体も、次に向けて“いきいき”と活動を続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して頂きたいと思います。また、「学生の部」は、2団体の応募がありました。いずれも甲乙つけがたい活動をしておられたのですが、「山口県立大学『ぷち☆スタ』実行委員会」に決まりました。週に3～4回と活動回数も多く、全国的にも稀な新しい取り組みであることが授賞の理由です。なお、今回は地域づくり分野は該当なしで、評価の高かった福祉分野の2団体を優秀賞とし、その内1団体を最優秀賞としました。最優秀賞・優秀賞団体の授賞理由は以下のとおりです。

○傾聴ボランティア「ピア山口」（最優秀賞・山口県知事賞）：福祉分野

“傾聴”という言葉がまだ認知されていない中、3人からスタートし、県内でも先駆的な団体として8年間この活動を続けて来られ、なおかつ様々な学習会や講演会に講師として出向きながら、徐々に賛同する仲間を募り、24人に増やしただけでなく、宇部や柳井に新たな団体を生み出したことが高く評価されました。今後、高齢者が増える社会ではメンタル的なケアにおいて“傾聴”のニーズはさらに高まると思われ、その将来性も評価し、最優秀賞としました。

○紙人形劇団ネリノ（優秀賞・朝日新聞社賞）：子育て分野

今回の応募は4回目ですが、活動が前年度に比べ格段にアップしている点が評価されました。例えば、地道に定期公演をしておられるだけではなく、金管アンサンブルとのコラボで開催されていること、被災地にも出向いておられること等です。上演回数は少ないですが、大型紙人形をその度に手作りする労力やその技術なども評価されました。

○光市認知症を支える会（福寿草の会光）（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：福祉分野

これまでに受賞された認知症を支える会の団体の活動と比べても遜色なく、地域のニーズに応えた活動を精力的にしておられることが評価されました。なお、以前奨励賞を受賞しておられますが、その時の活動にプラスして、県内初の“オレンジカフェえがお”を新設されたり、中学校と一緒に声掛け訓練をされ、その成果から見守り隊を新たに立ち上げたという活動も評価されました。

○エコプラザ・下関 ありがとうカフェ（優秀賞・山口新聞社賞）：くらしづくり分野

この団体は環境問題という地域の課題を解決するために常駐しながら活動しておられること、単なるリサイクル品を販売するだけではなく、エコ教室を開催し、地域の方のエコに対する認識を高めておられること、様々な情報発信をしておられることが評価されました。また、前回よりも活動は若干減ってきていますが、商店街とのつながり作りができていているということも評価されました。

最優秀賞（山口県知事賞）

傾聴ボランティア「ピア山口」

代表者 河合 郁子（福祉分野／宇部市）

活動の動機・目的

高齢社会となり、介護保険の導入で「手段的サポート」はずい分進んできたが、「心理的・情緒的なサポート」までカバーすることはできないし、行政に委ねることも難しい。しかし、世の中には淋しさに耐えて暮らしている高齢者がいかに多いことか……。そんな折、高齢者のお話相手となる傾聴ボランティアを全国に広める活動をしている「ホールファミリーケア協会」の存在を知った。養成講座を別々に受講して、各自で活動していた者3名が一緒に活動を開始。

悩みや寂しさを感じている高齢者のお話を心をこめて聴かせて頂いた時、私たちの関わりそのものを喜んで下さり、結果的に気持ちの元気を取り戻して下さると一層嬉しい。そしてボランティアにとっても新たな生きがいとなる相互扶助の活動となることを目指している。

活動の内容

高齢者福祉施設や在宅高齢者宅で活動。よい聴き方のトレーニングを積んだお話相手として、笑顔で、相手の目線で、話を否定せず、ありのままに聴かせて頂いている。毎回1時間程度の活動。

①施設での活動は、現在、宇部市内4施設、山陽小野田市1施設。

②在宅の高齢者宅での活動

宇部市高齢福祉課、宇部市社会福祉協議会から紹介のあった在宅高齢者宅で活動。まだ認知度が低いボランティアがトラブルに巻き込まれることなく個人宅で活動をするためには、それなりの枠組みづくりが必要。宇部市、宇部市社協と話し合いを重ね、「約束ごと」を作成。

③地域での声掛け。会員の中には、知り合いの高齢者宅を個人的に定期訪問している者もいる。

④研修・研鑽

月に1度の例会で、ホールファミリーケア協会発行の「月刊傾聴ボランティア」や書籍をテキストにして意見交換、活動内容の反省・ピアサポート（メンバー同士によるサポート）、ロールプレイ（役割実演）で傾聴スキルを高めている。

⑤啓発活動

ボランティアの分野では、少数派でパイオニア的な存在。また、「傾聴」という言葉もなじみの薄い言葉なので、これまでに2回、自前の講習会を開催して仲間を募っている。

⑥各地からの講演依頼に講師として出向く。これまでに、山陽小野田市社協、柳井市社協（これを契機に柳井に傾聴ボランティアが誕生）。宇部市社協ボランティア入門講座、阿武町社協等。

これからめざしたいこと

活動の始めやすさ、しやすさということで、これまで施設での活動を主としてきたが、大多数の高齢者は在宅生活なので、徐々に在宅高齢者宅へのシフトを考えている。今のところトラブルもなく、それなりに順調に経過しているが、件数はまだわずか。利用者は私たちの来訪を心待ちにしておられる。私たちの「傾聴」で、心豊かに過ごす高齢者が少しでも増えていくことを願っている。超高齢社会に入り、この活動を次の世代に繋いでいくことも私たちの務めだと思っている。



例会



施設での
傾聴ボランティア活動

優秀賞（朝日新聞社賞）

紙人形劇団ネリノ

代表者 谷本 和子（子育て分野／宇部市）

活動の動機・目的

紙人形劇の制作と上演を目的に活動。「絵本の心を紙人形に託して、子どもから大人まで、たくさんの人たちに伝えたい」という願いから発足。

動きや表情のある大型紙人形劇の制作、金管楽器の共演を通して、観る人の心に響く作品を上演し、より多くの人に心から感動できる豊かな作品を伝えていきたいと考えている。

活動の内容

○サマージョイント公演を山口金管アンサンブルと合同で親子で参加しやすいようにずっと無料で開催。今年度6回目を上演。原作の心を伝えられるよう紙人形の表情や動きにも重点をおいて制作する。2014年は8月23日 14時～16時 フィッカルあじすにて開催。

第1部『ロボくんとことり』（原作やなせたかし）

第2部 山口金管アンサンブル演奏

第3部『チロヌップのきつね』（原作 たかはしひろゆき）金管アンサンブルと共演

○今年度は、活動範囲を拡げ訪問上演会開催。

①厚狭図書館での上演会

演目 ちゅうじょう せいこ原作『森のかんづめ』、やなせ たかし原作 『ロボくんとことり』

②宮城県気仙沼市児童養護施設『旭が丘学園』訪問公演

演目 ちゅうじょう せいこ原作『森のかんづめ』、やなせ たかし原作『ロボくんとことり』

※宮城県への訪問上演会のきっかけとなったのは、昨年上演した作品『森のかんづめ』の「著作権利用許可証」の申請をした際、原作者の中條聖子さんが、阪神大震災で亡くなったことを知ったこと。心優しい女性医師で医療の現場で病と向き合われる中、「読んだ人を勇気づけ、少しでも幸せな気持ちになってもらえたら」と勤務の合間に書きあげられた遺作。原作者の気持ちに応えようと遺族の方は一昨年末、東北3県の被災地の全小学校と全国の児童養護施設にこの絵本を約2000冊送られたとか。この制作をきっかけに、訪問上演会を決めた。その後、1年かけて準備。今でも皆さんに紙人形劇を観てもらえることができ、喜んでもらったことが信じられないくらい。真剣に観てくれた子ども達の眼差しや笑顔に感動した。

③美祢市「山中カルチャーフェスティバル」訪問上演会 ～美祢市立東厚小学校

山中地域の文化祭にゲストとして招待され、上演した。

※今年度新たな取り組みとして、上演後にふれあいタイムを設け、子どもたちが、紙人形に触れたり、動かしたりして親しんでもらい、紙人形劇を楽しんでもらっている。

これからめざしたいこと

「子ども達が心から感動した時、子ども達は、その時点から変わっていき、前向きに進み始める。」私たちの公演がそんな『感動』との遭遇の機会になればどんなに嬉しいかわからない。そのためにも、心に響く紙人形劇の制作に努力を重ね、より内容のある公演にしていく。



2014
サマー
ジョイ
ント公
演



訪問
公演後
の
ふれあ
いタイ
ム

優秀賞 (y a b 山口朝日放送賞) 光市認知症を支える会 (福寿草の会光)

代表者 山下 悦子 (福祉分野/光市)

活動の動機・目的

認知症の人の介護はほとんどの人が手探りの状態。一人で抱え込むと身心ともに疲労困憊し、介護者自身の健康をも損なう。認知症の人と家族がそうならないように、介護方法を学んだり、家族間の交流を深めて助け合う家族会として発足。

認知症の人の福祉対策及び精神保健対策の充実を図るとともに、認知症の啓発活動を行い、認知症になっても安心して暮らせるまち“光市”を目指している。

活動の内容

①毎月1回例会開催(第1木曜日)。

介護者の悩み相談・情報交換を中心にした話し合いや認知症についての勉強会・体操・映画鑑賞・音楽療法・お手玉などを取り入れて身心の疲れを解放する。

②電話相談・・・9月アルツハイマーの日前後の1日、会員が認知症の相談を受ける。

③施設見学(近隣の介護施設、保健施設等)、リフレッシュ事業(温泉旅行、食事会等)。(各年1回)

④認知症サポーター養成講座を市内各地で開催(年5回)。

小・中学校教員人権研修会(夏休み実施)と浅江中学校に講師として出向く。

⑤総会を開催し、会報“えがお”を発行(年1回)。

⑥10周年記念映画上映会開催。

「わたし」の人生～我が命のタンゴ～(光市民ホール平成25年11月)。7月から準備を進め、介護施設、老人会、公民館関係民生児童委員会等に働きかけて、協力頂き、約700名が来場された。

⑦「おれんじカフェ“えがお”」のオープン(山口県初 平成26年6月)。

毎月第3土曜日(10時～15時)に定例開催。日々の生活の延長として捉えられるように光市虹ヶ浜の民家を借り受け、地域住民にも開放。認知症の人と地域の人が将棋を指したり、トランプをしたり、カラオケやタブレット端末(ipad)を使ってゲームを楽しんだり、おしゃべりをして自由に過ごす。光高校、聖光高校のJRC部の生徒も、手作りしたお菓子を持って協力して下さる。会員以外の家族の方も専門職を交えて相談を受けることができ、必要に応じて関係機関との連携をとっている。

⑧浅江中学校「認知症の人への声掛け訓練」(平成26年9月 午後2時間半)実施。

認知症を正しく理解し、温かく声掛けをする訓練。近所の認知症の人が道がわからなくなり、中学校に迷い込まれたという設定で、グループに分かれて校内を捜し、一人ひとり声掛けの訓練をした。

これからめざしたいこと

○「おれんじカフェ“えがお”」において、タブレット端末を使って認知症一次、二次予防の為のプログラム作りや物忘れ相談プログラムを使って早期発見・早期診断に繋いでいく方法を考えていく。

○浅江中学校「認知症の人への声掛け訓練」が訓練だけで終わるのではなく、地域での実践や交流に繋がる方向を考えていく。具体的には「あさなえ認知症見守りネットワーク」を作り機能させていき、その実現に向けて浅江地区コミュニティ協議会、民生児童委員、介護施設、浅江中学校、家族会が連携して実行委員会が作られ基盤ができた。これから内容を深めていく。



研修会
「認知症の理解」



“おれんじカフェ
えがお”で
楽しく歌おう

優秀賞（山口新聞社賞）

エコプラザ・下関 ありがとうカフェ

代表者 大野 康子（くらしづくり分野／下関市）

活動の動機・目的

下関地域環境パートナーシップ会議を設立する時に、環境問題に関心がある人が集まって、空き店舗を借りて「エコプラザ・下関」を開店。「未来の子ども達に美しい地球を残そう」という思いと美しい下関と地球環境を残すため、市民一人ひとりの努力をつなぐ環境づくりのための市民ネットワークを形成する。

活動の内容

①リサイクル活動

- ・リサイクル教室の開催（古布を使ってのパッチワーク作りや生ゴミ堆肥作り、廃油石けん作り等）。
- ・フリーマーケット主催

第1・3日曜日に商店街のふれあい広場で実施。地産野菜を主とした弁当やおでんなども販売。一般市民の方にも楽しんでもらうため、安く提供している。

②エコ商品（洗剤・ハミガキ・EMぼかし等市販品）の販売。

③ありがとうカフェの運営

- ・土曜日は予約で玄米・無農薬野菜や旬の地産食材を使ったランチと手作りデザートを提供。
- ・常時、有機栽培コーヒー、たんぼぼコーヒー、お菓子等の喫茶を実施。
- ・エコクッキング教室実施（予約制）。

具体的には、“食材、エネルギー、ゴミのすべての面で無駄を出さないこと、旬の野菜を使うこと”をコンセプトにメンバーの食品衛生責任者2名が対応する。

※ 地域の人達の集いの場となっていて、いろいろな人達が、いろいろなもの（古着・古切手・廃油・牛乳パック・プルタブなど）を持ち寄ったものを仕分けし、それぞれの場で生かしている。

④エコ農園を一般市民に貸し出している。

これからめざしたいこと

活動を始めて12年過ぎたが、地域になじんで商店街の皆さんにも認識してもらえた。来店者はお年寄りの方が多く、一人暮らしの方も多し中、話し相手になってあげられる。ほっとして帰られるので、憩いの場として少しは役に立っているかなと思う。

地球環境の問題を主婦の目でしっかりとらえ直し、これだったら私もできるということを実践してもらいたいし、できることを紹介しながら、その喜びを共有できる場として「エコプラザ・下関ありがとうカフェ」が役立っていければよいと思う。

またシルバーメンバーが多い私たち、今後、体を動かしての活動が困難な時が来ても、地球上のすべてのいのちを大切に思う心は伝えていきたいと思っている。人の心の中にはないことは実現しないの思いからだ。



エコプラザありがとうカフェの店内



フリーマーケットの様子

コープやまぐち奨励賞

福島の子どもたちとつながる宇部の会

代表者 橋本 嘉美 (子育て分野/宇部市)

活動の動機・目的

2011年3月に発生した東日本大震災において、発達障がい児・者を持つ家族は集団行動を強いられる避難が困難であったことから、長年、発達障がい児・者を支援してきた前代表の呼び掛けにより会が発足した。準備会に集まったメンバーの多くが、チェルノブイリで被爆した子どもたちの保養支援の経験を持っていた事から、特に原発事故によって健康被害が懸念される福島の発達障がい児・者を持つ家族の避難・保養・移住支援をすることを決めた。活動を通して、福島・山口(宇部)相互の交流と理解を深めることを目指している。

活動の内容

①保養実施。これまで5回(春1回、夏4回)、1週間程度の保養を実施。

【募集】

福島自閉症協会に依頼し、空きがある場合にウェブ募集へ切り替える。発達障がい児の保養は全国的に皆無の状況。今年は無理のない範囲で、3家族8人を受け入れた。

【実施内容】

中学生から高齢者まで幅広い年齢層の会員・ボランティアを統括・食事班・付添班の3つに分け、参加家族の世話をしている。子どもたちには、各々1人以上の付き添いボランティアをつけ、それぞれ特徴・個性を持つ発達障がい児に対応している。実施前には、研修を2回実施し、知識・理解を深めることとしている。今年度は海水浴の現地視察も実施。期間中は朝と夜に保護者も参加してのミーティングを行い、連絡を密にとり、安心・安全を確保。

今年度は、きわらビーチ海岸(宇部市)での砂遊び、海水浴。障がい者の就労施設「NPO法人 ぐうですぐう」の見学。甲状腺検査を実施(参加家族全員の健康診査)、専門家・経験者によるカウンセリングを実施。

②移住家族(母子避難)への支援

第1回目の保養をきっかけに3家族が宇部市への移住を希望。教育委員会への付き添い、家探し、経済的支援など実施。他にクリスマス会、新年会、懇親旅行の企画と子ども達の運動会への参加等。

③「3・11被災者に思いを寄せる宇部市民の集い」を「復興支援うべ」との共催で実施。

被災地の早期復興を願って企画。東北の物産販売などのバザーや紙芝居、朗読劇などさまざまなイベントを展開。

これからめざしたいこと

保養実施後、子どもたちに大きく成長した様子が見られた。言葉を発しなかった子どもが単語を言ったり、小さい子どものお世話や人の話をじっくり聞けるようになった子どももいた。子どもたちの成長は会員の喜びでもあり、活動できるメンバー・ボランティアが減り、資金面も苦しくなってくるが、引き続き、交流・理解を深めていきたい。



宇部空港で
名残り惜しく…



楽しい新年会
(平成二十六年)

コープやまぐち奨励賞 きらっとグレイス

代表者 松崎 雅子 (地域づくり分野/山口市)

活動の動機・目的

2011年3月の東日本大震災をきっかけに、シャンソンを勉強していたメンバーで何か社会に役立つ事をしたいと結成した。

きらっと輝いてグレイス (優雅) な表現世界を共有し、社会貢献を目指して活動する。

活動の内容

①施設等訪問

依頼を受けて、シャンソン、唱歌、ダンス、お話等で構成し訪問。シャンソンはよく知られた曲を選ぶようにしている。2014年度訪問したのは、

○吉敷軽井沢通り・ボランティア (玄濟寺)、防府市あかり園、小郡なぎの木等の施設へ。

○新春シャンソンショー、お雛祭りにシャンソン (松田屋ホテル)、東日本復興支援チャリティーコンサート (菜香亭)、中原中也・空の下の朗読 (中原中也記念館)、始めましてシャンソン (吉敷老人会)、国際ソロプチミスト・シャンソン (かめ福)、歌う会 (電遊館) 5回、お寺でシャンソン (善照寺)、チャペルでコンサート (小郡協会) 等。

②年1回「きらっとグレイス・コンサート」開催。

誰もが出演料1000円で舞台上で発表する場を作る。歌や踊りの他、ピアノやバイオリンの演奏などを披露してもらう。参加者にも楽しみながら協力してもらおうと企画した。収益金は日本盲導犬協会に送り、チャリティーコンサートとしている。

・2014年度は46グループ延べ約80人が参加。

・日本盲導犬協会の普及推進部リーダーによる実演を実施。ステージで実際に盲導犬の訓練を受けた犬を連れて歩き、曲がり角や段差の前で立ち止まったり、障害物を避けて歩いたりする様子を披露。

③一の坂川に奏でる～秋の夕べ (於 赤れんが) を主催。

<第1部> 音楽で綴る中原中也～愛に生きて～語り 福田百合子

演奏 松崎 雅子 (シャンソン) 吉岡 歌子 (フルート) 平野 郁乃 (ヴァイオリン)

脇淵 陽子 (ピアノ)

<第2部> ウイーンからの響～愛のうた～

伊藤 晶子 (ソプラノ) 脇淵 陽子 (ピアノ)

これからめざしたいこと

メンバーの平均年齢は73歳 (最高齢86歳)。自分達も楽しみながら皆さんに聞いてもらえる。今後も盲導犬とのデモンストレーションをすることで、この団体と盲導犬支援のことを多くの人に知っていただきたいので、得意分野を生かしながら、活動していく。



きらっとチャリティーコンサート



新春シャンソンショーのあとで

コープやまぐち奨励賞・学生の部

山口県立大学「ぷち☆スタ」実行委員会

代表者 松岡 優里 (子育て分野/山口県立大学)

活動の動機・目的

平成25年8月に「発達障害支援論」の授業の一環として、発達障害の子ども達の夏休みの宿題のサポートをさせていただく機会をいただいた。母親からもお話を聞かせて頂き、子どもたちを取り巻く環境(学校や社会)の課題を知ることができた。「私たちが学生でできることはないか」という思いで、社会福祉学部学生ぷちボランティアスタッフが発起人となり、障害児教育研究室の教授の力をかりて、不登校・発達障害のある児童生徒の学びと出会いの場「ぷち☆スタ」実行委員会を立ち上げた。

目的は①不登校や発達障害のある子どもの学びの場と出会いの場の提供 ②学生が不登校・発達障害のある子どものメンタルフレンド(心の友だち)となるための学びを深めること。

活動の内容

①ぷち☆スタ定例会：発達障害や不登校の子どもの学習支援と余暇支援。

○毎月1回、18時半～20時まで実施。内容は、はじめの会、お勉強(小学生30分/中学生60分)、自由時間(交流、すきな遊び、おやつ)、おわりの会。

○現在13名の小中高生が参加。1対1の学習支援。高校入試に向けての過去問題を一緒に解く。

高校入学後は提出課題支援。他に中学校の課題ワークの学習支援等。

※子どもの担当学生は固定(学習時)。遊びの時間は学生を交えて参加児童生徒が交流しながら遊ぶ。

以前は一人でゲームをしたりと、個々で遊んでいたが、今は皆で鬼ごっこをしたり、子ども同士が年齢をこえて交流するようになった。

②ぷち☆スタ受験生

月曜日～木曜日まで週4回(18時～20時)、受験生や不登校のため授業をうけていない中学生のために学習支援を行っている。現在2名の男子が参加していて、3名の男子学生が担当している。

③ミーティング(ふりかえり)

週1回を基本に集まり、メンタルフレンドになる可能性を探る為の実践をもとにした振り返りを実施。定例会の前週に担当確認と打ち合わせ、次週に振り返りを行う。わからないこと等出し合い、教授が答える。良かった事は共有。ふりかえりを通してよりよい会になるよう心がけている。

④保護者同士が悩みや情報を共有する場の提供

「ぷち☆スタ」の開催時間には、別に保護者の待合室を設けている。保護者同士が悩みや情報を共有する場となっている。担当教授がその輪の中に入り、相談があれば応じている。

⑤講演会「ぷち☆スタお話を聴く会」を主催(2014年12月22日)。⑥研修会に自費で参加。

これからめざしたいこと

子どもを取り巻く問題は多様化しており、その中でいじめや不登校の問題は深刻であり、その対応策が急がれている。また、発達障害の児童生徒の居場所づくりも社会的な課題。これらの社会的課題にチャレンジするために、学生ならではの力を発揮して新たな取り組みの方法を開拓していきたい。不登校・発達障害のある児童生徒への理解を深めるために、カウンセリングや援助技術を高めるための研修会を企画・実施や外部講師をお呼びして、ミニ授業を実施したい。



学習支援の様子



自由時間の様子

コープやまぐち組合員賞 オリーブ手品クラブ

代表者 長野 教子（くらしづくり分野／岩国市）

活動の動機・目的

1998年より月1回の手品教室に通い、手品の練習を積み重ねてきた。そしてようやく町内の芸能祭りや高齢者介護施設への慰問ができるようになるまで上達したその矢先、2010年、会員不足で教室が解散してしまい、慰問先の皆さんの笑顔を思いだすとせっかくここまでやってきた事を止めるわけにはいかないと、女性5名でこの会を立ち上げた。

自分達の手品で多くの方に喜んで頂き、笑顔になって頂くことをめざしている。

活動の内容

手品を披露する際はいつも“オリーブの首飾り”の曲を流している。慰問先からの要望や年齢に応じた歌やその時期に合わせた季節感のある歌を用意していき、参加型のステージも工夫している。平均年齢73歳。5人のメンバーがそれぞれ得意な手品を披露。衣装は主人のカッターシャツと手作りの黒のベスト（光沢のある裏地を切ったもの）、蝶ネクタイ、黒のパンツで。

○昨年度の活動実績は

高齢者介護施設へ12回、コープやまぐちの子育てネットへ2回、芸能祭りに2回、その他3回の計19回の慰問を実施。

○工夫しているところは

同じところに慰問する際は、皆さんをもっと驚かせる為、なるべく前回とは違った手品を披露する事にしている。その為に、慰問先ごとに手品の履歴を書き残し、常に新しい手品を披露できるように気を配っている。

○定例会開催と練習

月1回、玖珂町生涯学習センターで、慰問予定のプログラムづくりと時間調整、大がかりな手品の練習をし、あとは週1回代表者宅で練習。新しい手品を披露する時は、まずはメンバーの前で披露。

※講師がいなくて不安でいっぱいだったが、それがかえって自分達にやる気を起こさせたように思う。新しい手品の道具を揃えるためには、それなりの資金も必要で、なかなかの出費だが、皆さんに楽しんでもらいたい一心でクラブのみんなで何とか負担して揃えている。以前は高齢者の方（介護施設）への披露の場が多かったが、今では活動の幅も広がり、小さいお子さんや若いお母さんたちの前で披露する機会が増えた。

これからめざしたいこと

これからも小さなお子さんからご高齢の方まで、たくさんの人に喜んでもらえるように、また、自分たち自身もいつまでも若々しく元気に過ごしていけるように、尚、一層精進していきたいと思っている。



歌と踊りの
フェスティバル



高齢者施設にて

2013.01.25

コープやまぐち組合員賞

まごころ・支え合い・やすらぎ

代表者 入野 ミエ子（福祉分野／下関市）

活動の動機・目的

勝谷新町で地域に根付いた活動をしたいという気持ちをもった女性が集まって中心となり、地域の高齢者を招いて“遊ぼう会”を開いた。1人暮らしや身内が遠方にいる高齢者も多くいる状況。少子高齢化がどんどん進む中、できるだけ地域で声を掛け合い、助け合いながら高齢者を支援していけたらと思って活動している。介護のいらぬ元気な地域になることを目指している。

活動の内容

○“遊ぼう会”を毎月第4月曜日に開催。

約25人の高齢者の参加がある。内容は、ぬり絵や折り紙など、手先を使って手作り品の作成、転倒予防や脳の活性化を促す体操、輪投げやボーリングなどの楽しいゲーム等。他にも、熱中症や交通安全・高齢者を狙った詐欺など日々の生活で気をつけてほしいことも声掛けをしている。自治会長もいつも参加して、自治会からのお知らせ等を行っている。

○毎回“遊ぼう会”開催のお知らせを一軒一軒訪問して渡している。

“遊ぼう会”に参加できない1人暮らしの高齢者や、家に引きこもりがちな高齢者もおられるので、なんとか参加してもらいたいとの思い。手紙を添えてお渡しすると喜ばれる。時間をかけてやっとコミュニケーションがとれるようになった方もおられる。

○開催前には準備や、打ち合わせ・お知らせを渡す際、高齢者に変わった様子などを情報交換。

○高齢者への声掛けや見守りをほぼ毎日している。

実際に早期発見し、高齢者の家族にすぐに連絡を取ったケースも数件あった。

○年に2回、季節の旬のものを取り入れ、手作りの食事会を実施。

○年1回の地域の夏祭りに、“遊ぼう会”でいつも練習している手話体操を発表している。

○社会福祉協議会や介護支援センターの方々による福祉全般に関する学習会に積極的に参加し、学んだことを“遊ぼう会”の中で役立てている。

○社会福祉協議会の介護士を講師に介護学習会を実施。等。

これからめざしたいこと

現在、遊ぼう会で福祉バス登録の申請を出す予定。なかなか地域から離れる機会がない高齢者に花見など楽しいイベントを計画していきたい。気持ちを持って高齢者の方と接しているうちに深い絆もでき、毎日のように電話や訪問があり、関わりを持たせていただいている。住み慣れた地域で、高齢者から困った時はすぐに連絡をいただけるよう・・・身近にいて高齢者が安心して生活できるよう・・・これからも微力だが、地域に根づいた活動をしていきたいと思っている。



夏祭りに参加



ミニ運動会で玉入れ